

飯舘村長泥地区環境再生事業技術検討ワーキンググループ（第2回） 議事要旨

日 時	平成 31 年 3 月 13 日（水） 15：30～16:30			
場 所	飯舘村役場 2 階第 1 会議室			
出席者	委 員	飯舘村	・ 飯舘村長泥行政区 ・ 飯舘村内農業有識者	嶋原 清三 菅野 元一
		学識経験者	・ 東京大学大学院農学生命科学研究so 教授 ・ 特定非営利活動法人放射線安全フォーラム 理事 ・ 国立研究開発法人農業・食品作業技術総合研究機構 農業環境変動研究センター 環境情報基盤研究領域 土壌資源評価ユニット兼本部企画戦略本部 上級研究員	根本 圭介 多田 順一郎 万福 裕造
	事務局等	・ 飯舘村復興対策課・建設課 ・ 福島地方環境事務所中間貯蔵部中間貯蔵総括課土壌再生利用推進室 ・ 三菱総合研究所 ・ 除去土壌等減容化・再生利用技術研究組合 ・ サンコーコンサルタント		
議事要旨	○事務局より「試験栽培の進捗および指摘事項に対する対応」の説明を行った。質疑応答により以下の点が確認された。 ・ポット試験分析結果について交換性 K による Cs の吸収抑制を確認するため、交換性 K の値を記載しないと評価できない。土壌成分を含めすべて整理して評価を行うこと。 ・ビニールハウスの土壌成分の提示を早期に行うこと。 ○事務局より「露地栽培における実証盛土について」の説明を行った。質疑応答により以下の点が確認された。 ・大型ポットなどにより、十分根が伸びる状態で、再生土壌のみで移行係数を計測していただきたい。大型ポットは、例えば、1.5m程度の塩ビ管などでもよい。 ○万福委員より「栽培実証事業における土壌の定義（呼び方）案」が説明された。質疑応答により以下の点が確認された。 ・土壌について呼び方は、考え方を整理した上で統一していただきたい。 ・一方で、長泥の人たちは土壌についての細かい違いについてイメージを持っていないため、誤解の生じるような呼称は避けていただきたい。必要に応じて、協議会などで使用する用語と報道向けの用語を使い分けることも必要。 ○その他、次回のワーキンググループ開催に向け、以下の点が確認された。 ・移行係数に係る詳細なデータは 3 月末を目途に収集する予定。 ・参考資料に示された再生資材化の処理能力などの数値については、誤解を招かぬよう提示のこと。			
以上				